

映画「エクレール・お菓子放浪記」の上映会が11月13日(日)パルナスで行われ、1部・2部合わせて約500人の観客が楽しみました。

この映画は、東日本大震災の被災地である宮城県石巻市を舞台に撮影された映画で、町のイメージアップ大使である三上寛さんも出演しています。実は、この映画が封切られる前に震災が発生し、上映が見送られていましたが、被災地を応援しようと各地の団体や実行委員会が上映会を企画。今回、町でも上映しようということで実現しました。

午後1時からの部では、実行委員長と町長があいさつ。また、映画へ出演している三上寛さんも舞台あいさつに駆けつけ、同時上映された「けの汁」(つがる市FC製作)と合わせた2本の自身出演映画の製作秘話や、震災に関するエピソードなどを語りました。



また、場外ではこの映画にちなみ、町内2菓子店による「エクレール」の販売も行われ、買い求める観賞客でにぎわっていました。

今回の入場料収入の一部や、会場設置の募金箱に募金されたお金は、11月16日(水)に日本赤十字社宛の義援金を町長へ手渡し、そのほか町社会福祉協議会などへも寄付されました。



めったに見られない本物のバレエ鑑賞

中里小で

子どもたちに本物の芸術を見せたいと企画されたバレエ鑑賞会が、11月11日(金)中里小で行われ、全校児童や保護者などがめったに生で見られない舞台芸術を鑑賞しました。この鑑賞会は、文化庁の「次代を担う子どもたちの文化芸術体験事業―巡回公演事業―」として行つたもので、米塚教頭によると「感動体験で、子どもたちの夢を育み、自己実現につなげたい」ということから応募したそうです。



当日やってきたのは、関西でプロ活動を行っている「法村友井バレエ団」で、1部ではレッスンのことやバレエの基本を説明。最後には、8人の中里小児童によるバレエ演技も行われました。

2部・3部では、いよ本物のバレエ鑑賞。プロが見せる高度なテクニックと高い芸術性に、会場からは何度も何度も拍手がわき起こっていました。赤石校長は「私も生でバレエを見るのは初めて。子どもたちには本物を体験してほしい」と話していました。

